

Macedonia Eco-DRR Newsletter

Capacity Building For Eco-DRR Through Sustainable Forest Management In MACEDONIA _ Nov 2017 - Oct 2022

持続的な森林管理を通じた、生態系を活用した防災・減災（Eco-DRR）能力向上プロジェクト

本プロジェクトの目的は森林生態系の多様な機能を利用し、洪水、地すべり、土壌侵食、森林火災に対する生態系を活用した防災・減災（Eco-DRR）のモデルが開発されることです。

世界的な自然災害リスクの増大に伴い、Eco-DRRに対する期待は近年高まっています。

新型コロナウイルス感染拡大下におけるプロジェクト活動状況

新型コロナウイルス感染拡大による渡航制限措置により、Eco-DRRのプロジェクトは2020年春に予定していた現地派遣を延期する事となりました。

WHOの報告(Coronavirus disease(COVID-2019)situation reports)によると、6月16日現在、北マケドニアにおけるこれまでの感染者数合計は3,902人、死者数179人。日本における感染者数合計は、17,429人(クルーズ船事例は除く)、死者数925人となっています。両国の自粛制限は徐々に緩和されつつありますが、依然、渡航再開の見通しは立っていません。このような状況を受け、プロジェクト専門家はリモート会議などを通じて随時C/P(カウンターパート)と連絡を取り合い、現地の状況を確認すると共に、研修マニュアルの作成など日本に居ながら対応可能な作業を進めています。

ラドビシュ南 リモートで植林状況を確認しました



ガリー斜面の治山工法

ガリー斜面の土が流れ出さないように、土のうを使用したテラス(筋工)を施しました。またテラスの間は表面をシュートマットで覆っています(伏工)。次回のラドビシュ北サイトでは、現地で調達可能な丸太、石をテラスに利用する事を検討しています。こうした地域の条件に適合した技術や材料の選定は、C/Pと協議しながら進め、彼らの治山工事への理解向上と将来的な技術の定着を目指します。

2020年3月、現地からのモニタリングレポートと写真報告をもとに、ラドビシュ南のパイロットサイトにおける植林状況の確認を行いました(最終確認は専門家現地入り後に実施)。

今回の植林に使用された苗木は約11,000本で、本プロジェクトで機械化を支援したPENF(森林公社)の苗畑施設、スベティニコで育苗されたものです。対象地には、オーク、クロマツ、トリネコを植えています。

今回の植林にあたっては、降水によって地表面が削られて出来た谷間、

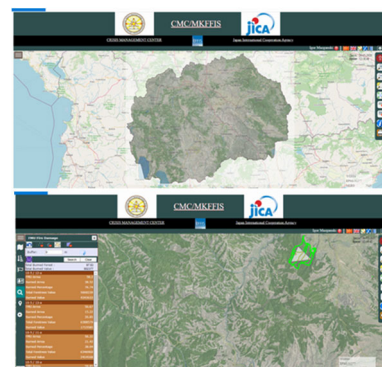


植林した苗木

MKFFIS, GFIS開発 リモートで進捗を確認しました

MKFFIS:森林火災情報システムとGFIS:森林管理情報システムの機能強化開発について、2020年4月、遠隔作業による進捗確認を行いました。(最終確認は専門家の現地入り後に確認)。本プロジェクトでは、2014年のJICAプロジェクトで開発されたMKFFISに、森林火災以外の災害(洪水、土砂崩れ、土壌侵食)データも追加しています。またGFISには、データの編集、地図の印刷、編集履歴の記録にも対応する地図作成環境を追加しています。

今後は、MKFFIS, GFIS使用者を対象に、これら新たに開発された機能の操作研修も実施する予定ですが、実施方法についてはプロジェクト専門家の渡航状況に応じて検討していく予定です。



MKFFISシステムの概観

北マケドニアからの留学生オグネンさん取材しました

北マケドニア出身のオグネンさん(Mr. Ognen Onchevski)が、文部科学省の国費外国人留学生制度を利用して2019年4月から日本に留学しています。オグネンさんは来日前、スコピエ市のシリル&メトディウス大学で森林科学を専攻し、日本では、東京農業大学の大学院で農業工学を専攻しています。今回は、そのオグネンさんをリモート取材しました。



オグネンさん

Q. 日本への留学を決めたきっかけは何ですか？

A. 日本の文部科学省より、国費外国人留学生制度による留学を認められたからです。日本は、世界でも有数の教育制度が整った国で、大学では充実した環境施設の下で研究や勉学を継続する事が出来ると思ったため、この留学制度に申請しました。

Q. 日本では、具体的にどのような研究がしたいですか？

A. 私の主な研究分野はランドスケープレベル(生態系・土地利用全体)で改善する取組です。自国において降雨量が最も少ない乾燥した区域への適切な対策を、ランドスケープレベルで分析していきたいです。アグロフォレストリーは私が探求している研究の一つです。

Q. 実際に日本に住んでみて、印象はどうですか？

A. 日本での生活は快適で、とても満足しています。興味深い人々との出会いや様々な場所を訪れる機会にも恵まれ、日本文化への理解も深まりました。また、大学の教授を始め、大学での仲間や一緒に過ごしている友人がいつもサポートしてくれて、非常に感謝しています。

Q. 将来的な目標について教えてください

A. 国費外国人留学生制度は、博士課程まで進む機会も与えられます。私はまさにそれを目指しており、現在の修士課程終了後は博士課程での研究継続を申請する予定です。将来的には、私の国や世界において、ランドスケープレベルで改善するプロジェクトの形成や実施に携わっていきたいです。

当プロジェクトサイトにおいても、防風林を含むランドスケープアプローチの適用を検討していますが、北マケドニアにおける研究資料は非常に限られているのが現状です。オグネンさんと当プロジェクト双方の取り組みが相乗効果を産み出し、互いの成果に繋がる事を願っています。

今半期 成果毎の主な活動

共通の活動

- ◆渡航延期に伴う国内振替作業の検討と対応
- ◆リモートによる現地C/Pとの情報共有

成果1: MKFFISの機能強化および活用

- ◆MKFFIS・GFIS開発 遠隔操作による進捗確認
- ◆危険崩壊地判読の全国展開方法の検討

成果2: 森林管理計画強化

- ◆次期対象のFMUを検討

成果3: 治山+植林技術能力向上

- ◆ラドビシュ南 治山工事・植林のリモートによる進捗確認
- ◆ラドビシュ北 治山工事・植林の設計および入札準備

成果4: Eco-DRR啓発普及

- ◆SNS等による広報活動



Macedonia Eco-DRR Facebook

<https://www.facebook.com/MacedoniaEco-DRR/>

次期半期のイベント

- 森林回復計画訓練マニュアル作成、研修実施
- 治山技術効果のモニタリング
- ラドビシュ市コジャリア北地区 治山・植林設計
- リシチェにおける社会経済調査検討

※渡航状況により変更の可能性有

コンタクト



危機管理センター
Crisis Management
Center (CMC)
HP: www.cuk.gov.mk/mk

プロジェクトオフィス

Dimce Mircev No.9, Skopje, Macedonia
Tel: +389-2-3249-115/145/146
E-mail: EcoDRR.MK@gmail.com
HP: https://www.jica.go.jp/project/north_macedonia/001/index.html



森林公社
Public Enterprise
National Forests (PENF)
HP: www.mkdsuni.com.mk



独立行政法人
国際協力機構